

## ドイツ語教員養成・研修講座開講のお知らせ

2015年7月

日本独文学会ドイツ語教員養成・研修講座 実行委員会

日本独文学会は、ドイツ語教育部会、東京ドイツ文化センター（Goethe-Institut Tokyo）と共催で、標記講座を開いています。現在開講中の講座は、2015年9月で終了いたします。それに伴い、2015年10月から新しい講座を開講いたします。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

新規講座では、新たな試みとして、Goethe-Institutの教員養成教材である *Deutsch Lehren Lernen (DLL)* のモジュール4 *Aufgaben, Übungen, Interaktion* を取り入れます。このモジュールを修了した場合、Goethe-Institutで *Grünes Diplom* を取得する際に、既習モジュールとしてカウントされます。

本講座の目標は以下の3点です。講座では、受講者と十分な議論ができる場の形成を目指します。

1. ドイツ語教育について共通の理論的基盤を獲得する。
2. 独力でシラバスを編成し、授業プランを立てて実践できる。
3. 外国語教育を含むカリキュラム全般について科学的根拠に基づいた責任ある発言ができる。

### 講座の構成

1. オンライン授業
2. ワークショップ
  - モジュール方式でテーマを設定し、オンライン授業では、受講者は課題について Moodle 上で議論するとともに、レポートを担当講師に送り、担当講師からコメントを受信します。
  - モジュールのテーマとしては、「CEFR と SFLL」「受容的能力（聴く・読む）」「様々なメディアと ICT」「自律学習・協調学習」などを予定しています。
  - モジュール毎に1回開かれるワークショップ（土曜日午後2～6時）では、後半で課題について講師による導入・解説が行われます。それを基に、受講者はレポートを作成します。次のワークショップの前半で、レポートに関する討論が全体で行われます。
  - ワークショップは、慶應義塾大学日吉キャンパス、神戸学院大学有瀬キャンパスと九州大学箱崎キャンパスの三カ所を会場とし、テレビ会議でつなぎ、実施します。

### 講座の概要

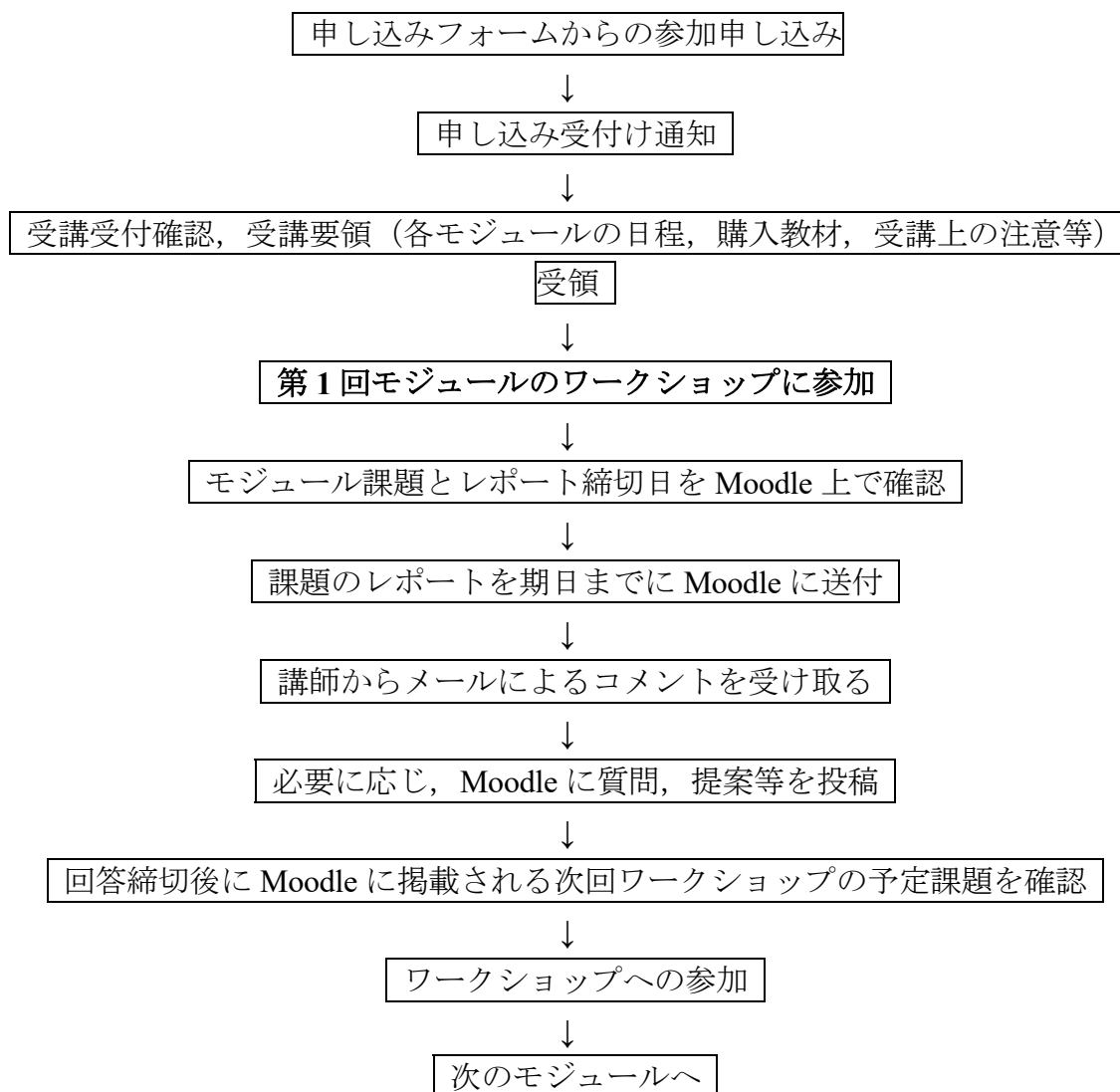
1. 参加資格：日本独文学会会員および教育部会準会員（非会員でご希望の方は委員会までご相談下さい）

2. 期間：2年 ただし1年ごとの参加も可能です。初めての受講の場合には、1年目からの受講のみ可能です。2年目からの受講は、過去に前期講習を受講済みの場合に限りです。
3. 開講：2015年10月
4. 申込み受付：2015年7月10日（金）～9月30日（水）
5. 申込み：以下の申し込みフォームから  
<https://docs.google.com/forms/d/1oJpLZWPD5k2Ln9CpaaFYt8TbjWQjWNxuXqD7LNKfGgA/viewform>  
もしくは、次のQRコードから、申し込みフォームにアクセスする



6. 講座参加費（1期1年）：¥32,000（予定；但し、教材費は自己負担。大学院学生は¥3,000割引）
7. 募集参加者数：20名程度
8. 参加証：講座修了後、日本独文学会、ドイツ語教育部会、ゲーテ・インスティテュートの連名で発行。
9. 問い合わせ先：日本独文学会ドイツ語教員養成・研修講座実行委員会：[dafkurs-open@jgg.jp](mailto:dafkurs-open@jgg.jp)
10. 各モジュールのテーマ：別紙参照
11. 授業参観
  - 実習は受講者が個別に行います。講座が仲介した授業に出向き、担当教員の授業を参観します。
  - 参観した授業は原則としてビデオで撮影をします。
  - 参観した授業の分析・報告をレポートとして提出し、ワークショップで検討します。
12. 実習（実験授業）
  - 実習は受講者が個別に行います。ただし、勤務校を持たない受講者については、本講座実行委員会が実習校の斡旋をします。
  - 実習に際しては、実習校の教員、または本講座実行委員が **Betreuer** として付きます。
  - 実習はビデオで撮影をします。
  - 実習者（受講者）は **Betreuer** の指導のもとにレポート課題として実習の報告を作成し、本講座に提出します。
  - ワorkshopで、実行委員会が選んだ実習ビデオを **Plenum** での検討対象とします。

受講のチャート（申込みから受講まで）



ドイツ語教員養成・研修講座 プログラム (予定)  
前期 (2015年10月—2016年7月)

ワー ク シ ョ ッ プ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ		レポート課 題	DLL
		前半	後半		
1	10月	導入：コースへの期待；自身の体験の振り返り	M1: 教授法の変遷と教材分析	教材分析等	
2	11月	DLL 導入ワークショップ			オンライ ン学習
3	12月	M1 のレポートの 評価と討論	M2: 受容的能力 (「聴く」「読む」)	具体的提案 等	オンライ ン学習
4	1月	M2 のレポートの 評価と討論	DLL 4, Kap. 1 & 2	課題なし	オンライ ン学習
5	4月	DLL 4, Kap. 3 & 4 & 5	M3: 近年のドイツ 語教育の傾向； <i>CEFR</i> と <i>SFL</i>	具体的提案 等	オンライ ン学習
6	5月	Praxiserkundungsprojekt (PEP) プレゼン テーション		課題なし	PEP 実施
7	6月	M3 のレポートの 評価と討論	M4: ドイツ語の授 業の参観	授業参観の 実施	
8	7月	M4 のレポートの 評価と討論	講座の総括 修了パーティ		

後期（2016年10月-2017年9月）

ワー クシ ヨッ プ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ		レポート課題	DLL
		前半	後半		
1	10月	外部講師による講演	M5: 様々なメディアとICTの導入	具体的提案等	
2	11月	M5のレポートの評価と討論	M6: 文法とコミュニケーション・アプローチ	具体的提案等	
3	12月	M6のレポートの評価と討論	M7: 自律学習・協調学習, 学習方略	具体的提案等	
4	1月	M7のレポートの評価と討論	M8: 動機づけと意識調査	具体的提案等	
5	4月	M8のレポートの評価と討論	M9: フィードバックと評価	具体的提案等	
6	5月	M9のレポートの評価と討論	M10: 授業計画, 実験授業の準備	具体的提案等	
7	7月	M10の実験授業の報告, 討論	M11: カリキュラムとシラバス	実験授業の実施	
8	9月	M11のレポートの評価と討論	講座の総括 修了パーティ		